

シノリガモ（カモ科） 全長43センチ

内陸部には殆ど飛来しないシノリガモを、西目の海岸で眺めてきました。

3月中旬の日本海は波高く、まだ寒風吹き荒ぶ海辺でした。漁港に近い砂浜は強風により荒波が打ち寄せ、野鳥の姿はほとんど見えません。

沖合から100mほど離れた波消しブロックの手前で、数羽のカモ類が荒波の上で浮かんだり沈んだりしていたが、特徴ある模様からオスのシノリガモと分った。



波消しブロックで休憩

冬鳥として飛来し、主に海岸沿いで越冬する習性から、大仙市などの内陸部では見られません。

海辺ではシノリガモ以外はほとんど見当たらず、岩壁に数羽のカモメが休んでいるだけです。波間に浮かぶシノリガモは頻繁に潜水を繰り返していたが、主に貝類や甲殻類を食べるそうです。



後姿も白黒がクッキリです。



波間に浮かぶオスとメス。

地味なメスに比べ、カラフルなオスは遠目からもはっきりと確認できます。

頭の両側にある円形の白斑は目ではありません。実際の目は黒く、少し前方に位置します。オシドリのような派手さはありませんが、ぬいぐるみのような親しみを感じました。



左にメスがありますが、分かるでしょうか。



メスの羽ばたき。